



ゆずりは

堺市立図書館だより

第18巻 第3号 (通巻68号)

発行日 令和5年12月10日

編集・発行 堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072 (244) 3811

FAX 072 (244) 3321

<https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/>

[libcontents/search/?gid=1025](https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/libcontents/search/?gid=1025)



▲電子版

令和5年度 堺っ子読書フォーラム

「ソウゾウのチカラ～本と遊びできらめく子どもの世界～」

令和5年11月25日(土)、西図書館2階ラーニングスペースにて、令和5年度 堺っ子読書フォーラム「ソウゾウのチカラ～本と遊びできらめく子どもの世界～」を開催しました。堺っ子読書フォーラムは、堺市の関係部局で構成する子ども読書活動推進会議が主催する事業であり、堺市子ども読書活動推進計画の周知を図り、子どもの読書の必要性・有用性への認識を深めることを目的とし、子どもの成長や読書活動に関する講演等を行っています。

第1部では、美原区役所企画総務課による「美原区読書習慣形成事業『美原まちなか文庫』の取組について」、みはら大地幼稚園による「絵本とともに一公立幼稚園での絵本を活用した取組について」の2つの事例発表と、子ども読書活動推進会議の事務局である中央図書館より堺市子ども読書活動推進計画の進捗状況の報告を行いました。

第2部では、同志社女子大学現代社会学部現代子ども学科教授、および愛知教育大学名誉教授である竹井史(たけいひとし)氏をお招きし、ご講演いただきました。前半は発達段階ごとに広がっていく子どもたちが描く絵の世界の豊かさについて、後半は実際に会場内で工作も行い、本を通して得られる「想像と創造」の疑似体験の大切さについて語っていただきました。

子どもたちが描いた絵を多数紹介しながら、子どもたちの感性を伸ばしていくことの大切さについて語られ、参加された方は一心に聞き入っておられました。一方、工作の実演が始まると楽しみな声上がるなど盛り上がっていました。



動画配信実施予定

第1部・第2部ともに動画配信を行う予定です。ご希望の方は、中央図書館HPをご参照ください。

申込受付は令和5年12月27日(水)の午後11時までです。ぜひお申込みください。



▲動画配信

申込はこちら

(中央図書館 こども室担当)

目次

- ・令和5年度 堺っ子読書フォーラム「ソウゾウのチカラ～本と遊びできらめく子どもの世界～」 …1
- ・この本で解決！「狭山池に関する質問」 …2
- ・X(旧 Twitter) で情報を発信しています …2
- ・中央図書館で郷土資料展「堺と芸能」と記念講演会「堺の芸能今むかし」を開催しました …3
- ・司書のイチ押し『あした、弁当を作る。』 …4
- ・堺市立図書館電話番号一覧 …4

ゆずりは

とは…

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆずりゆずりて
譲り葉の
ゆずりしあとに
また新しく



この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だより「ゆずりは」と名づけました。

バックナンバーは

こちらから▶





図書館に寄せられた様々な質問と回答を紹介します

狭山池は大阪狭山市にある日本最古のダム式のため池であり、国の史跡に指定されていることをご存じの方も多いと思います。また狭山池から流れる西除川と東除川は、数百年前から今日に至るまで、灌漑水路を通じて現在の堺市美原区や東区東部の田畑を潤しています。そんな狭山池に関する質問を紹介します。

Q 仁徳天皇陵古墳（大仙古墳）の濠水は狭山池から取水していたというのが本当ですか。

A 『絵図に描かれた狭山池』（大阪狭山市教育委員会）に「狭山除川並大仙陵掛溝図」という、水路が仁徳天皇陵古墳まで伸びていたことを示す江戸時代の絵図が収録されています。また『古墳と池溝の歴史地理学的研究』（川内眷三／著 和泉書院）には、狭山池から仁徳天皇陵古墳までの導水ルートが復原図が収められています。ただし現在の仁徳天皇陵古墳の濠水は、狭山池ではなく、古墳の東にある向陵公園内の芦ヶ池が水源となっています（堺市ホームページより）

Q 重源（ちようげん）の「作善集」に狭山池に関する記述がありますか。

A 重源は、東大寺の再興に尽力した鎌倉時代の僧侶で、狭山池の改修に携わったことでも知られています。「作善集」（南無阿弥陀仏作善集）は晩年の重源が自らの事績を書き残したもので、『俊乗房重源の研究』（小林剛／著 有隣堂）、『大阪狭山市史』などに収録されています。狭山池については「堤が壊れ荒れていた狭山池に六段の石樋（水を送るための管）を設置した」と記しています。狭山池の「平成の改修」で石樋とともに重源の改修内容を刻む「重源狭山池改修碑」が見つかり、重源による狭山池改修が、建仁 2（1202）年であることがわかりました。

参考

・堺市ホームページ「芦ヶ池水路（芦ヶ池ルート）」

<https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/doro/doboku/kasensuiro/kasenseibi/suikankyo/route.html>

・『重源とその時代の開発』大阪府立狭山池博物館 2002 年

・『大阪府立狭山池博物館常設展示案内 治水灌漑の土木遺産を継承する』大阪府立狭山池博物館 2001 年

（美木多分館 レファレンス担当）

X（旧 Twitter）で情報を発信しています

各館のおはなし会やブックフェア情報のほかに、図書館に入ることが決まった資料の紹介や、電子書籍の新着情報の発信も行っています。また、警報発表時の臨時休館情報等も発信しています。

まだフォローされていない方は、ぜひフォローをお願いします。

（中央図書館 企画情報係）



▲堺市立図書館

X アカウント

中央図書館で郷土資料展「堺と芸能」と 記念講演会「堺の芸能 今むかし」を開催しました

令和5年11月4日（土）から26日（日）まで、中央図書館1階ロビーで郷土資料展「堺と芸能」を開催しました。堺は芸能に秀でた人物を多く輩出しています。「隆達節（りゅうたつぶし）」を創出した高三隆達（たかさぶりゅうたつ）、「難波（なにわ）の太夫」と称された上方女形を代表する歌舞伎役者の二代目中村富十郎（なかむらとみじゅうろう）、浮世絵師の中井芳瀧（なかいはよしあき）、



日本喜劇の創始者、曾我廼家五郎（そがのやごろう）、歌舞伎の座付作者の食満南北（けまんなんぼく）。かつてリゾート地であった大浜で大正時代から始まった大浜少女歌劇。また堺は、江戸時代には幕府公認の芝居小屋が2つもある芝居の盛んな地でもありました。それら堺の芸能に関する当館所蔵の史料、絵画、写真、パンフレット等や解説パネルを展示しました。

展示品は高三隆達の自筆がわかる『はいかい隆たつ』、二代目中村富十郎を描いた役者絵、中井芳瀧が描いた歌舞伎役者絵「五大力恋緋（ごだいきこいのふうじめ）」や「大阪錦画新聞」、曾我廼家五郎の芝居パンフレットやブロマイド、自筆絵はがき、当時のちらし、食満南北自筆の一代絵巻や絵日記、小説『納屋十人衆（堺繁昌記）』の自筆原稿。大正14年発行の『歌劇オーハマ』には少女歌劇で演じた「カルメン」の脚本や様々な舞台写真が掲載されています。女優たちの芸名を駅名から取っていたというエピソードは、舞台写真に添えられたキャスト紹介で確認できます。

また、江戸時代に堺で上演された歌舞伎の「芝居番付」や「堺鑑町芝居絵図（さかいかぎちょうしばいえず）」「堺戎馬芝居絵図（さかいえびすじましばいえず）」という江戸時代の芝居小屋内の配置がわかる絵図も展示しました。

11月26日には、記念講演会「堺の芸能 今むかし」を開催しました。講師は佛教大学歴史文化学科教授の斉藤利彦氏にお願いしました。斉藤氏は、かつて中央図書館で実施した古文書調査事業で調査員としてかかわっていただき、また『近世堺と歌舞伎』（大阪公立大学共同出版会）、『近世上方歌舞伎と堺』（佛教大学）という著作も出版されています。講演会では、多くの史料から引用して当時の様子を紹介していただき、江戸時代の歌舞伎と興行地である堺について、2つあった堺の芝居小屋の変遷について、堺の芝居小屋にやってきた歌舞伎役者たちについて、天保の改革で大坂を追放され堺で活動した二代目中村富十郎について、堺生まれで、十一代目片岡仁左衛門や初代中村鴈治郎の座付作者であった食満南北についてなど、盛りだくさんにお話しいただきました。「凋落期」と言われることもある江戸時代の堺ですが、芸能、とりわけ歌舞伎の興行からみると、堺は有力な興行地であったこと、名だたる歌舞伎役者たちが堺にやってきたことなど、「繁栄」する堺の一面を知ることができました。

（中央図書館 地域資料担当）





司書のイチ押し



あした、弁当を作る。

ひこ・田中／著 講談社 2023

このタイトルと表紙を見て、みなさんはどんな本だと思うでしょうか。弁当を作ったことがない人が、周りの力を借りて弁当作りに励むハートフルストーリーでしょうか。ところがどっこい、このおはなし、そんな甘いものではないのです。

主人公は中学生の龍樹。家族構成はサラリーマンの父親と、専業主婦の母親。母親は龍樹のことを「タツちゃん」と呼んで、料理・洗濯・掃除と、何から何まで世話を焼きたがり、龍樹もそれを当たり前のように受け入れてきました。

けれどある朝、学校へ行く龍樹の背中に「いってらっしゃい」と触れた母の手に、彼はゾクッと寒気がし、それ以降、表面上はいつも通りを装いながらも、心の中で母親からの接触を厭うようになっていきます。そんな時、共働きの両親を持つ友人が自分で弁当を作っているという話を聞き、なんでも母親任せの自分に疑問を持ち始めた龍樹。そして思い立つのです。ぼくも自分で弁当を作ってみよう、と。ここで描かれているのは、思春期にさしかかった男の子が、自分の生き方や家族のあり方に悩み、考え、決意し、親と向き合っていく過程の物語です。親にべたべたされたくない、自分のことは自分でしたい。この思いに「そんなこともあったな」「今まさにそうだ」と共感する人は多いのではないのでしょうか。そんな時、あなたの周りの大人たちはどうしてくれたか、思い出してみてください。龍樹には、親は壁となって立ち塞がります。母親は「タツちゃんのお世話をすることが私の生きがい」と言い、父親は「男が家事なんかするもんじゃない」と怒り、母親の仕事を“奪っている”龍樹をわがままな子どもだと責め立てます。

父の、高圧的な態度と支配欲。母の、息子への依存

とその真意。龍樹は弁当を作るために、自分の家庭環境に立ち向かっていくことになるのです。そして、そんな彼を取り囲む友人たちは、みんな魅力的です。大人顔負けの考えと会話には、ちょっと笑えて、それでいて心にぐさりと刺さるものがあります。

「ぼくは、母さんの生きがいのためだけに生きているわけじゃない」

物語の後半、龍樹は思いを吐き出します。親を悲しませたくはない、けれどその庇護の下からは飛び出したい。でも自分はまだ子どもで、親に養ってもらわなくては生きていけない。そのもどかしさに揺れる龍樹に、私の心もいつの間にか一緒に揺れていました。

このおはなしがどのような結末を迎えるのかは、読んでみて、あなたの目で確かめてみてください。もしかしたら、人によってはもやもやを感じるかもしれません。すっきりしたと思う人もいられるかもしれません。龍樹の選択と、心の変化を、どうか見届けてください。

児童書ではありますが、大人が読んでも読み応えは十分。これから中学生になる子も、今まさに思春期真っ盛りの中高生も、そしてかつて子どもだった大人も、どうぞ読んでみてください。

ちなみに、作者は御年70歳！このお年でも中高生の心を掴む筆力には驚かされます。

(H・N)



ひこ・田中『あした、弁当を作る。』(講談社)

堺市立図書館電話番号一覧

中央図書館	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター船松人権歴史館	
くすのき号	244-3811	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	美木多分館	296-2111	図書館カウンター堺東	232-1011
東百舌鳥分館	234-9600	北図書館	258-6850		
東図書館	235-1345	美原図書館	369-1166		
初芝分館	286-0071				



▲図書館 HP

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>